

令和3年度における金沢大学長の業務執行状況の確認及び評価について

令和4（2022）年3月31日

金沢大学学長選考会議

金沢大学学長選考会議は、国立大学法人金沢大学学長選考規則第13条の規定に基づき、監事との連携協力のもとで令和3年度における学長の業務執行状況についての確認を実施した。

1. 確認の経過

第61回学長選考会議（令和4年3月17日（木）13時00分開催）において、山崎光悦学長から、令和3年度における業務執行状況及び学長就任以降の取組みについて約25分にわたるプレゼンテーションがあり、各委員による質疑応答を行った。

2. 評価の結果

令和3年度における学長の業務は、計画どおり順調かつ適切に執行されていると判断する。

また、学長就任後の8年間において修めた数々の業績は、金沢大学のプレゼンスを大きく高めることに繋がっており、大学の発展に寄与した功績は極めて顕著なものであったと判断する。

なお、委員からの主な意見等は、以下のとおりである。

- ・金沢大学の存在感を高めた要因には、地道な努力の成果として、科研費の獲得件数や獲得金額が増加していること、WPIの採択や文部科学省をはじめとする多くの競争的資金の獲得などが挙げられる。また、学内COE制度を導入し、優れた研究資源を核とした研究拠点を形成したことは、研究力の強化に大きく寄与しており、偉大な功績である。
- ・多くのプランやプロジェクトのネーミングについて、目的が明確に表現されており、構成員の結束を促しやすいものとなっている点が素晴らしい。
- ・「教職協働」の下、総合技術部の設置、技術職員認定制度の導入など、技術職員の育成に非常に注力されている点が注目される。
- ・国際化について、SGUの取組みを進める中で、学生、教職員ともに英語が不得手であっても英語を活用しようという気概が生まれ、そのレベルが向上している点は大きな成果であり、今後も更なる向上を目指してほしい。
- ・学長は、教員人事において、膨大な資料すべてに目を通し、優秀な人材の採用、その育成に苦心してきた。その結果が、金沢大学の研究力強化、ひいてはプレゼンス向上につながったと思われる。

- ・多くの戦略を立て実施し、成果も上がってきていると思われるが、一方で運営費交付金における「成果を中心とする実績状況に基づく配分」などにおいては、一部その成果として評価されていない項目もあり、その点を分析・改善していくことが今後の課題と思われる。

3. 評価結果の公表

業務執行状況の結果については、本学のホームページに公表し、周知を行うものとする。